

# 産科・婦人科領域の研究を助成 神澤医学研究振興財団 神澤医学賞を贈呈

産科・婦人科領域の研究を奨励する助成事業及び優れた研究成果に対する褒賞・助成事業を行っている公益財団法人神澤医学研究振興財団(理事長・神澤陸雄、松本市)は、毎年この時期に研究成果発表のための講演会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2年連続で開催を中止。このほど神澤理事長が、2019年度と2020年度の神澤医学賞の受賞者2人へ賞状と褒賞金を贈った。

神澤医学賞は、産科・婦人科領域及び高・老年期の女性に発現する疾患領域で先見的・独創的研究により顕著な功績をあげた研究者に贈られる。

2019年度(第22回)受賞者の名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学教室の梶山広明主任教授は、卵巣非閉鎖細胞がん及び卵巣細胞がん患者の妊娠性温存に関して、その適応、限界及び周産期予後を明らかにし、思春期・若年成人卵巣がん患者の再発頻度、再発形式、腫瘍学的予後を解析・解明したことが評価された。また腹腔内オカルト転移の発生頻度や、その機序に関して分子生物学的手法を用いて解明した一連の研究成果は、「がん生殖領域」に新たな一石を投じた。

2020年度(第23回)受賞者の東北大学病院総合周産期母子医療センターの立花眞仁准教授は、ヒト成熟卵における紡錘体置換法(MST法)を世界に先駆けて開発し、成熟卵の発生能を損なうことなく全細胞質を置換することが可能になり、母系遺伝であるミトコンドリア病(難病指定)の伝播防止を目的とした治療法を報告したことが評価された。さらにiPS細胞に替わる再生医療の新しい幹細胞(nTES細胞)樹立の可能性を示し、ミトコンドリア病患者の再生医療に道を拓いた。

2018年度と2019年度に研究助成金の交付を受けた先生方による研究成果報告書は、研究報告集として本年10月に刊行予定となっている。



名古屋大学 梶山広明教授



東北大学病院 立花眞仁准教授

## 医療面からの少子化対策

神澤医学研究振興財団は、日本における最も深刻な課題の一つである少子・高齢化問題に対し、女性の健康保持、増進を図るための産科および婦人科医療の分野における医療面からの貢献を目的に平成9(1997)年6月に設立された。以来、周産期および高・老年期の女性に発現する各種疾患に関する研究を推進し、平成22(2010)年6月には、内閣府公益認定等委員会より公益財団法人への移行認定を受け、同年7月「公益財団法人神澤医学研究振興財団」へ移行した。これまで(平成9年

## 公益財団法人 神澤医学研究振興財団 研究報告集 執筆者一覧

### ■2019年度(第22回)神澤医学賞受賞者

若年卵巣がん患者の妊娠性温存治療に関する学際的研究：～微小腫瘍播種克服を目指した分子生物学的アプローチから疫学的研究まで～  
名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科学教室 主任教授 梶山 広明氏

### ■2018年度(第22回)研究助成金交付者

1. 羊水塞栓症補助診断マーカーとしての血清SCCAの有用性の解明  
奈良県立医科大学 医学部産婦人科学教室 助教 赤坂 珠理晃氏
2. 胎生期環境に由来するエピジェネティック変化に着目したPCOS(polycystic ovary syndrome: 多嚢胞性卵巣症候群) 新規治療ターゲットの同定と治療法の開発  
名古屋大学 大学院医学系研究科 産婦人科学教室 講師 大須賀 智子氏
3. 多嚢胞性卵巣症候群におけるビタミンD/ビタミンD受容体遺伝子多型を介した卵成熟制御機構  
福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 講師 太田 邦明氏
4. 低分子化合物を用いたヒトiPS細胞の軟骨細胞への分化誘導法  
東京大学 医学部附属病院 骨軟骨再生医療講座 河田 学氏
5. 廃棄される未熟卵・異常受精卵による自己大量細胞質移植によるART治療成績の改善を目指した研究  
東北大学 東北大学病院産婦人科 助教 志賀 尚美氏
6. 光干渉断層計を用いた最適組織選択による効果的な卵巣組織移植法の開発  
聖マリアナ医科大学 医学部産婦人科学 准教授 高江 正道氏
7. エストロゲンシグナルによる造血幹細胞エイジング制御  
国立国際医療研究センター研究所 生体恒常性プロジェクト プロジェクト長 田久保 圭吾氏
8. 多精子受精阻害機構関連因子の網羅的同定  
関西医科大学 医学部附属生命医学研究所 ゲノム編集部門 学長特命准教授 徳弘 圭造氏
9. 婦人科がん幹細胞を標的とした新規免疫療法の確立  
札幌医科大学 医学部産婦人科学講座 助教 真里谷 葵氏
10. 最長寿・老化耐性超遺伝子カテナズミを利用した新たな卵巣老化抑制方法の開発  
熊本大学大学院先端機構/大学院生命科学部 老化・健康長寿学 准教授 三浦 恭子氏

### ■2020年度(第23回)神澤医学賞受賞者

細胞置換法を用いたミトコンドリア遺伝子の遺伝子治療確立と難治性不妊克服への挑戦  
東北大学病院 総合周産期母子医療センター 准教授 立花 眞仁氏

### ■2019年度(第23回)研究助成金交付者

1. 高齢女性における下部尿路機能障害克服を目指した、加齢に伴う脳幹パルチン核の機能障害の解明  
横浜市立大学 大学院医学研究科 泌尿器科学教室 助教 伊藤 悠城氏
2. 非ヒト霊長類動物における子宮移植技術の開発：新たな生殖医療技術の臨床応用に向けて  
国家公務員共済組合連合会 立川病院 産婦人科 医長 木須 伊織氏
3. 胎盤機能不全の病態生理における赤血球の役割と新規治療法の開発に向けて  
東京大学 医学部生殖発達加齢医学専攻 生殖内分泌学研究室 助教 佐山 晴亮氏
4. 妊娠機能破綻におけるS100A9-NLRP3インフラマソーム機構の役割  
東京農業大学 農学部動物科学科 動物生殖学研究室 教授 白砂 孔明氏
5. 胎児発育不全の改善に果たすタラフィルの作用機序の解明  
三重大学 大学院医学系研究科 産科婦人科学 助教 田中 佳世氏
6. AM-RAMPシステムを標的とした、閉経後代謝障害へのアプローチ  
信州大学 医学部循環病態学教室 田中 愛氏
7. 卵巣癌オルガノイドバイオバンク構築による次世代型精密医療の実現  
慶應義塾大学 医学部産婦人科学教室 講師 千代田 達幸氏
8. ヒトES/iPS細胞を用いたAgingに伴うX染色体破綻が初期胚発生能に及ぼす影響の解明(～Agingによる原因不明不妊のin vitroモデルの構築～)  
東海大学 創造科学技術研究機構 医学部 特任講師 福田 篤氏
9. 患者由来オルガノイドを活用した子宮体がん精密医療の実装  
千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部 丸 喜明氏
10. エストロゲン制御性non-codingRNAの乳がん再発への関与の解明  
国立がん研究センター研究所 細胞情報学 主任研究員 山本 雄介氏

財団の概要	
名称	公益財団法人 神澤医学研究振興財団
所在地	〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号
行政庁	内閣府
設立	平成9年6月27日
公益財団移行	平成22年7月1日
出捐者	故・神澤邦雄、キッセイ薬品工業株式会社
設立経緯	当時のキッセイ薬品工業株式会社代表取締役会長神澤邦雄からの私財の提供、およびキッセイ薬品工業株式会社からの創業50周年を記念しての資金提供により設立
基本財産	1,722,110,000円
設立目的	周産期を中心とするリプロダクティブ・エイジ(出産適齢期)および高・老年期の女性に発現する各種疾患に関する原因、予防、診断、治療等の多角的な研究(以下、対象研究)の奨励等を行うことにより、医療・医学の発展を図り、もって国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする
事業内容	目的達成のため以下の事業を行う (1)対象研究に関する優れた研究成果に対する褒賞(神澤医学賞) (2)対象研究に関する研究助成 (3)対象研究に関する海外留学助成 (4)対象研究に関する講演会の開催
研究褒賞・助成計画	神澤医学賞(研究褒賞) 1件 300万円 1件 研究助成 1件 200万円 10件 海外留学助成 1件 50万円 4件

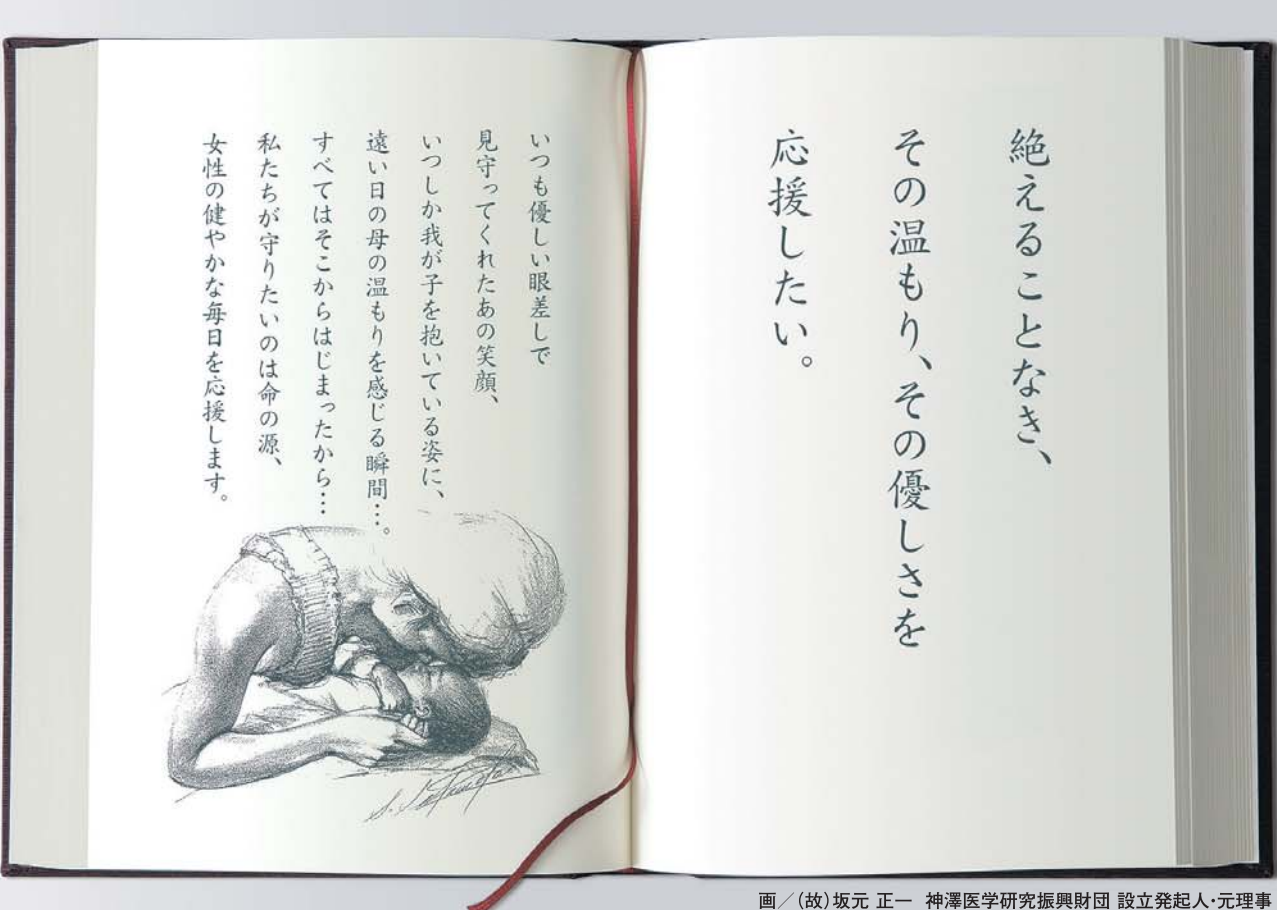
## 公益財団法人 神澤医学研究振興財団

長野県松本市芳野19番48号  
https://kanzawa-kissei.co.jp/



神澤 陸雄 公益財団法人 神澤医学研究振興財団 理事長  
【設立】平成9年6月27日  
【設立経緯】当時のキッセイ薬品工業株式会社代表取締役会長神澤邦雄からの私財の提供、及びキッセイ薬品工業株式会社からの創業50周年を記念しての資金提供により設立

子どもを安心して生み育てられる社会を目指すために、そして女性の一生が健やかであるために、心身ともに健康でいられる環境の整備が求められています。私たち神澤医学研究振興財団は、子どもを生み育てる女性及び高・老年期の女性に発現するさまざまな疾患に関する原因、予防、診断、治療等の多角的な研究に対して助成を行っています。



絶えることなき、  
その温もり、その優しさを  
応援したい。

いつも優しい眼差しで見守ってくれたあの笑顔、  
いつしか我が子を抱いている姿に、  
遠い日の母の温もりを感じる瞬間...  
すべてはそこからはじまったから...  
私たちが守りたいのは命の源、  
女性の健やかな毎日を応援します。



画/(故)坂元 正一 神澤医学研究振興財団 設立発起人・元理事  
元社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター所長・元東京大学名誉教授